

富山県小矢部市

平成26年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2015年3月

小矢部市教育委員会

例 言

1. 本書は、2014（平成26）年度に富山県小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概要報告書である。
2. 調査は、小矢部市教育委員会が実施した。ただし、桜町遺跡（4）は有限会社毛野考古学研究所に、同遺跡（7）は株式会社エイ・テックに、日の宮・道林寺遺跡は株式会社太陽測地社に業務支援を委託した。担当は次のとおりである
調査事務：大野淳也（生涯学習文化課主任）
現地調査 常深 尚（前毛野考古学研究所富山支店）：桜町遺跡（4）
岡田一広（株式会社エイ・テック）：桜町遺跡（7）
中山優子（株式会社太陽測地社）：日の宮・道林寺遺跡
大野淳也：上記以外
3. 現地調査の作業員は、併富山県シルバー人材センター連合会から派遣を受けた。
4. 本書の編集・執筆は基本的に大野が担当したが、桜町遺跡（1）については常深氏に、同遺跡（7）については岡田氏に、日の宮・道林寺遺跡については中山氏に執筆を依頼した。
5. 土層の色調については『新版 標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄編著、1967）に準じている。
6. 出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目 次

事業の概要	1
市内遺跡発掘調査等事業一覧	2
市内遺跡発掘調査等事業位置図	3
桜町遺跡(4)	4
桜町遺跡(7)	9
日の宮・道林寺遺跡	11
報告書抄録	

事 業 の 概 要

26年度の概要

2014（H26）年度に小矢部市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査等は16件である。うち2件は事業主負担で実施した本発掘調査で、市内遺跡発掘調査等事業として国庫補助を受けて実施した発掘調査等は試掘調査14件である。このほか、工事立会1件に対応した。開発行為の事前協議、民間・個人による小規模開発、農地転用・農業振興地域除外申請に伴う問い合わせ等は合わせて70件あまりあった。

調査の原因は、開発行為別にみると、個人の住宅建設、携帯電話基地局設置、店舗建設、公共事業に伴うものなどがある。事業の原因者は、個人5件、民間事業所7件、公共団体3件である。特に今年度は、東部産業団地内のアウトレットモール開業を翌年に控え、周辺の桜町・西中野地内での民間事業所による商業施設建設や県道拡幅、住宅移転などに伴う関連した開発が多く、桜町遺跡において8件の試掘調査と2件の本発掘調査を実施した。

以下、調査種類別に各々の調査について概要を報告する。試掘調査の結果については本書次項で報告する。

本発掘調査

本発掘調査は、市街地北方にある桜町遺跡内で国道8号バイパスを挟んで南北2ヶ所で実施した。南側の調査区は民間商業施設の建設に伴うもので、本書収録の「桜町遺跡（4）」の試掘調査の結果に基づき、構造物の建設が予定される4,841.98m²の範囲について事業主負担により本発掘調査を実施した。国道北側の調査区は道の駅メルヘンおやべの敷地内で、同施設設置時に緑地帯として盛土により遺跡の保護が図られた部分のうち654m²の範囲について、駐車場の拡張に伴い事業主（市）負担により本発掘調査を実施した。

両調査区の間に位置する国道敷地内、および道の駅敷地内においては、過去に本発掘調査が実施され、奈良・平安時代を主体とする集落跡が確認されている。今回の2件の本発掘調査においてもその続きとなる遺構や遺物が検出されているが、その詳細については現在整理作業中であり、平成27年度中に別に報告書を刊行する予定である。

工事立会

工事立会は、県指定史跡となっている若宮古墳の指定地外で行われた墓地造成に伴い実施した。既に林地として過去に削平を受けた部分で、遺物等は確認されなかった。

市内遺跡発掘調査等事業一覧

No.	遺跡名	所在地	調査対象面積 (掘削面積)	調査種別	現地調査等 用 間	調査結果	調査原因
1	桜町遺跡(1)	法來寺西中野 入会字道島 1-1外	687m ² (10m ²)	試掘調査	26.5.22	遺構、遺物確認されず。	個人住宅建設
2	桜町遺跡(2)	宇治新字大西 島889-1外	965m ² (10m ²)	試掘調査	26.5.22	遺構、遺物確認されず。	個人住宅建設
3	桜町遺跡(3)	西中野字坂東 834-1外	1,010.148m ² (17m ²)	試掘調査	26.6.18	遺構、遺物確認されず。	県道改良
4	桜町遺跡(4)	桜町字産田 1278-1外	13,952.80m ² (510m ²)	試掘調査	26.7.3~31	掘立柱建物、溝、土坑、 柱穴(古代)検出。 弥生土器、土師器、須恵 器、土馬、土師質土器出 土	商業施設建設
5	桜町遺跡(5)	西中野字古田 901-1外	2,739.92m ² (30m ²)	試掘調査	26.7.29	遺構、遺物確認されず。	産業団地造成
6	桜町遺跡(6)	西中野字庭植 394-1外	747m ² (10m ²)	試掘調査	26.8.8	遺構、遺物確認されず。	個人住宅建設
7	桜町遺跡(7)	西中野字坂東 499外	9,829.65m ² (703.5m ²)	試掘調査	26.11.4~27	井戸・溝(古代、近世)、 柱穴(古代)検出。 土師器、須恵器、珠洲鏡、 伊万里焼出土。	商業施設建設
8	日の宮・道林寺遺 跡	蓬沼77-1外	7,505m ² (200m ²)	試掘調査	26.12.24 ~ 27.1.8	遺構、遺物確認されず。	太陽光発電 施設設置
9	桜町遺跡(8)	西中野字小三 昧前631-1	15m ² (15m ²)	試掘調査	27.2.14	遺構、遺物確認されず。	携帯電話 基地局建設
10	後谷条里遺跡	後谷字日焼 900-8	264.95m ² (4m ²)	試掘調査	27.3.9	遺構、遺物確認されず。	個人住宅建設
11	埴生上野遺跡	埴生187-1	20m ² (3m ²)	試掘調査	27.3.9	遺構、遺物確認されず。	携帯電話 基地局建設
12	蟹谷条里遺跡	平塚6419-2	499m ² (3m ²)	試掘調査	27.3.9	遺構、遺物確認されず。	作業所建設
13	田川条里遺跡(1)	田川字前田 3175-1	16m ² (4m ²)	試掘調査	27.3.16	遺構、遺物確認されず。	携帯電話 基地局建設
14	田川条里遺跡(2)	田川7048-2外	496m ² (3m ²)	試掘調査	27.3.16	遺構、遺物確認されず。	土地改良 総合整備 (用水路改修)

市内遺跡発掘調査等事業位置図



(1:50,000)

桜町遺跡(4)



図1 調査位置図 (1:5,000)

1. 調査の概要

今回の調査は店舗開発に伴う試掘調査であり、現地調査は7月3日から30日にかけて行なった。幅1m、長さ10mの試掘トレンチを50本設定し、重機により表土を掘削、人力によって平面断面の精査を行なった。最大掘削深度は100cm、掘削面積は合計510.00m²である。

基本層序は図3のとおりである。調査対象地の北西部は微高地、北東部から南部にかけては低



図2 トレンチ位置図 (1:2,500)

地が広がっている。微高地では遺構検出面のV層を地山として、その上に遺物包含層であるV層が堆積する。V層は古墳時代から平安時代にかけての遺物を含み、とくに奈良時代のものが多い。低地部では遺物は少くなり、V層の下にVI・VII層の堆積があり、IX層が遺構検出面となる。28TではVII層中から弥生土器が出土している。

2. 遺構

調査対象地北西部の微高地を中心に掘立柱建物・溝・土坑・ピットが検出された。

掘立柱建物は22Tで3基のピット列を確認したもので、 2×3 間程度の南北棟であろう。過去の調査における軸方位からは奈良時代と推定される。柱穴は50~60cmの規模で、柱間距離は1.6~1.7mを測る。18Tでは方形の柱穴内に柱根が遺存し、掘立柱建物の可能性がある。

溝は約40条検出された。北西から南東方向を指向するものが多く、調査対象地南側の低地へ向かっている。溝の幅は最大5.3mを測り、蛇行するものもある。国道8号線小矢部バイパス調査

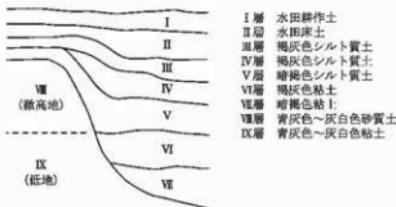


図3 基本層序模式図 (1:20)

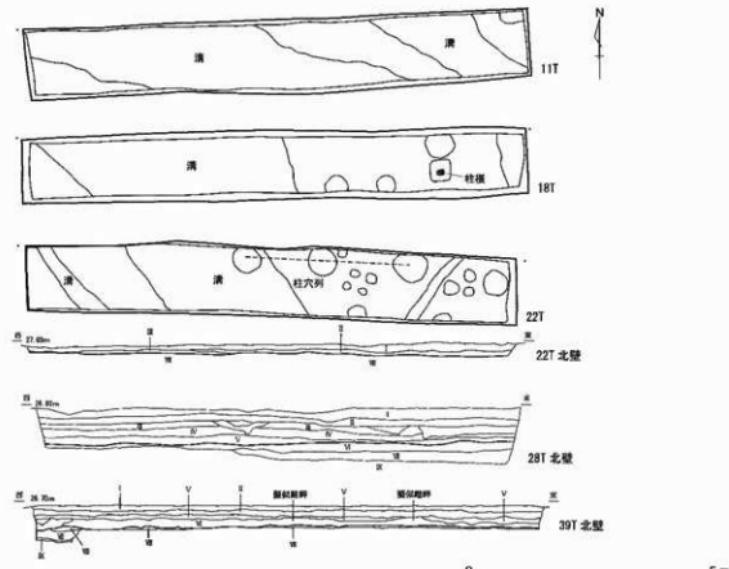
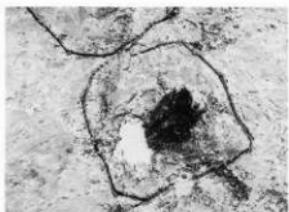
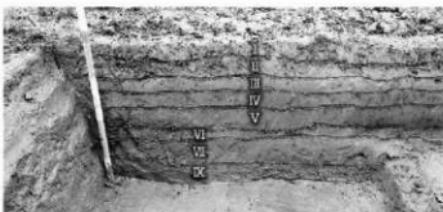


図4 11T・18T・22T・28T・39T 平断面図 (1:100)

の溝SD10・11などに連なるものと考えられる。これらと直交する方向の溝は西側で小規模なものがみられるだけで、建物の区画溝などであろうか。溝の時期は検出面の遺物からすれば飛鳥時代から平安時代である。一方で41・44Tで検出された南北溝は同一の溝と考えられる。この溝の周辺(39・40T付近)における断面観察では、V層が下のVI層を鋤き込む様子が観察された。またVI層の一部では畔状の高まりがあり、41Tでは南北溝の脇でも高まりが確認され、南北溝を境にV層下面の標高が東西で異なっていた。これらの状況から、周辺にV層を耕作土とする水田造構が広がっていた可能性がある。ただしVI層にみられた畔状の高まりは、旧地表面としての畔ではなく、耕作による搅拌を免れた畔の基部がわずかな高まりとして検出されたものであろう(擬似畦畔)。当時の水田面はすでに失われてしまっている。上位のⅢ・Ⅳ層には中世遺物が含まれないことから、水田造構の時期は古代であると考えられる。南北溝は水田造構に伴う用水路の可能性が考えられる。



18T 柱根検出状態(南から)



34T 北壁土層断面(南から)



22T 造構検出状態(東から)



11T 造構検出状態(北西から)



39T 北壁土層断面(南西から)

3. 遺物

出土遺物は弥生土器、古墳時代から平安時代の土師器・須恵器、中世の天目茶碗・擂鉢、土製品（土馬・籠羽口）、石器（スクレイバー）などがある。

1は弥生時代終末から古墳時代初頭の甕である。この時期の遺物は少なく、5Tで有段口縁甕が出土した程度である。2～4は古墳時代の土師器である。2は後期の杯で内面黒色処理である。3は前期の赤彩された高杯（口径19.8cm）、4は小型の甕である。この時期の遺物は東寄りの低地部に散在する。5～11は飛鳥時代から平安時代の土師器である。5は内外面を赤彩した奈良時代の杯、6は平安時代の椀である。7・8は奈良時代の高杯である。8は内外面に赤彩を施す。9は飛鳥時代の甕である。10は奈良時代の甕、11は奈良時代の鍋で、内面にカキメが残る。古代の土師器杯類の出土は少なく、また土師器甕はハケ調整を施す飛鳥時代の甕が主体であり、奈良時代から平安時代のロクロ甕は少量である。12～28は飛鳥時代から奈良時代の須恵器である。12は飛鳥時代前期、小さいカエリの付く13は飛鳥時代後期の蓋である。14～16は奈良時代の蓋で天井部はヘラケズリである。17～24は奈良時代前期から中期の高台杯である。19は底径12.2cmの大型品で、体部に沈線が彫る。18の底部外面と24の底部内面には直線状のヘラ書きがある。25・26は奈良時代中期の杯である。27は奈良時代の長頸瓶の底部、28は甕の口縁部である。須恵器の出土量は多く、奈良時代のものが主体、飛鳥時代・平安時代のものは少量である。29は中世の土師質土器の擂鉢である。口縁部内面に凹線があり、7条1単位の節目が施される。中世の遺物は表土から少量出土し、ほかに2Tから天目茶碗の小片が出土している。30は11Tから出土した土馬の脚部である。径3.2cm、長さ10.0cmである。11Tからは土馬の胴部片も出土している。このほかに47Tで凝灰岩系のスクレイバーが出土している。

3.まとめ

今回の調査では、バイパス調査で検出されていた飛鳥時代から平安時代の集落が、調査対象地北西側の微高地まで広がることが確認された。32T・34T付近がその南限となるようである。1987年度調査区で数多く検出されていた溝の延長も確認され、溝の西側にも掘立柱建物が存在する様子も窺われた。溝の周囲では11Tで土馬の胴部と脚部が出土したから、集落内で水辺の祭祀が行われたことを示している。1985年度調査区からも土馬が出土しており、時期は平安時代とされている。北東部から南西部には低地が広がっている。このうち北東部19Tから37Tにかけては、溝ないし土坑が散在し掘立柱建物が広がる様子はなく、包含層中の遺物もごく少量であった。しかし28TではV層から古墳時代前期の土師器、VI層中から弥生時代終末期の弥生土器が出土し、微高地とは異なる遺物の様相があることは注意される。南東部の39T・42T・46T付近では、前述の水田遺構が存在した可能性があり、北西側の微高地から延びる溝はここへの配水を意図したと考えられる。時期の最も古い溝が判明すれば、開田時期を探る手掛かりとなろう。なお42T・43Tは過去の調査で検出されていた道路状遺構に最も近い場所であったが、そのような痕跡はなく、道路状遺構は現道の下に存在するようである。南西部の47T～50TではV層以下に未分解の植物を含む泥炭質土が堆積し、湿地帯であった様子が窺われた。

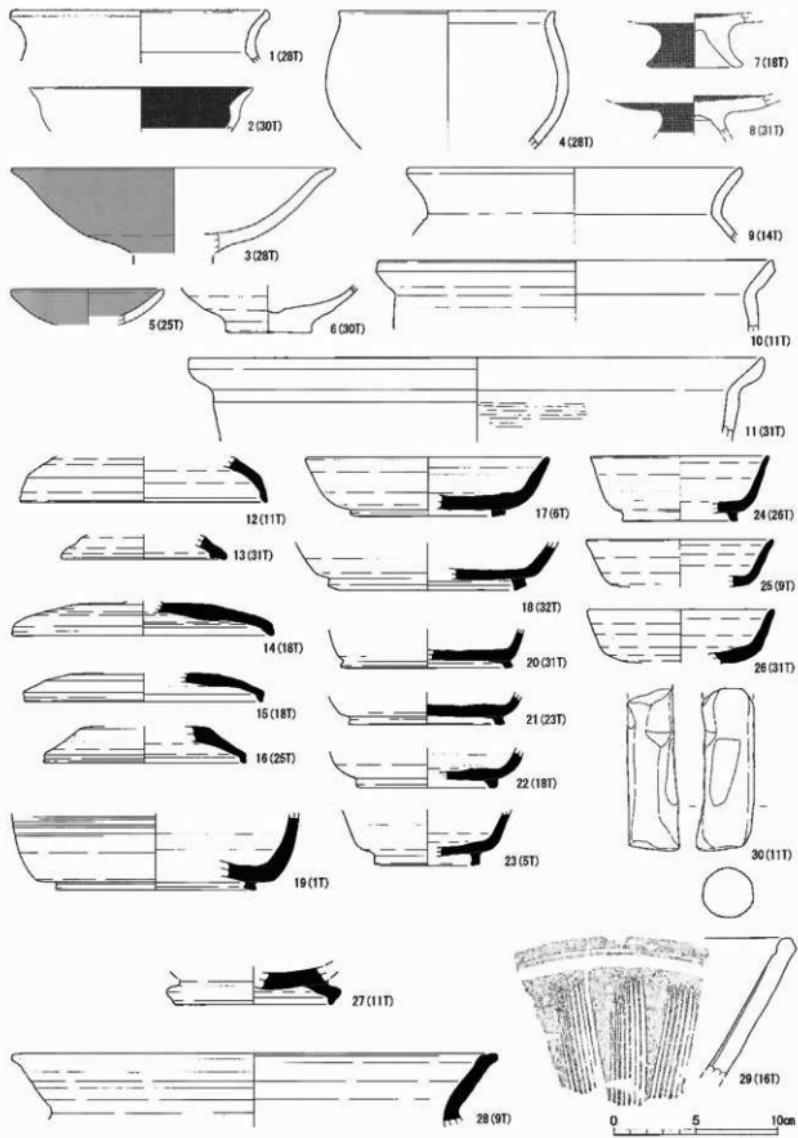


图5 出土遗物 (1:3)

桜町遺跡(7)



第1図 調査位置図
(1 : 5,000)

1. 調査の概要

今回の調査は農地転用に先立つ、試掘調査である。今回の調査対象面積は9,800m²で、調査面積は703.5m²である。調査期間は平成26年11月4日から11月27日の実働16日で実施した。

本調査地区は遺跡の中央北側に位置し、標高は約25mである。調査は幅1.0mの試掘トレンチを東西方向に40本設定した。重機によって表土および堆積土を掘削し、最大掘削深度は130cmである。

基本層序は、I層：褐灰色粘土質シルト（水田耕作土）、II層：灰黃褐色粘土質シルト（遺物包含層）、III層：黒褐色シルト質粘土、IV層：黒褐色粘土（遺物包含層）、V層：青灰色粘土層（地山）である。

III層を掘り込みII層を覆土とする溝の断面を確認したので、III層上面に上層遺構検出面が存在する。なお、III層は植物の根に由来する鉄分が多量に含まれることからIII層は水田耕作土であると推測できる。T28で木桶を井戸側とした近世の井戸を検出し、この井戸の覆



第2図 トレンチ位置図 (1 : 2,000)

土がⅡ層であることから、Ⅱ層は近世以降の堆積である。Ⅲ層から遺物は出土しなかったが、層序から中世以降の堆積と推定する。Ⅳ層は古代の遺物包含層で8世紀前葉の須恵器杯蓋が出土した。

2. 遺構

近世の遺構は井戸・溝を検出した。井戸はT28で検出し木桶を井戸側とする。溝は、T10・T17・T20・T23・T26・T32・T33・T35・T36・T40の断面で検出した。南北方向に走る溝で、T20の南側周辺で分流すると推測する。

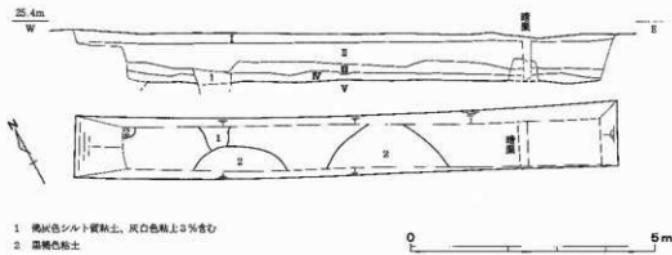
古代の遺構はⅣ層を覆土とする遺構で、井戸・流路・溝・ピットを検出した。井戸はT15で直径約2mの円形の掘り方で2基検出した。流路は東西方向に走る溝でT9で南岸、T10で北岸を検出した。T4・T13・T14・T16でピットを検出した。平面形は円形の他に、隅丸方形となるものもあることから、掘立柱建物の柱穴の可能性がある。

3. 遺物

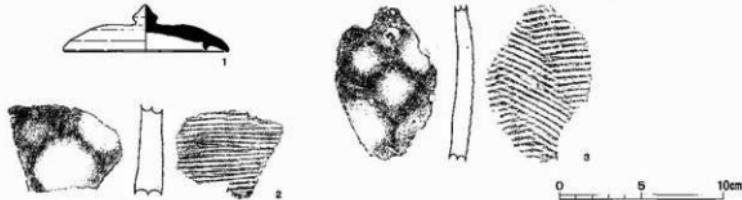
I層ではT29から伊万里、II層ではT14・T32から珠洲、IV層ではT3・T11から土師器・須恵器が出土した。1は須恵器の杯蓋でつまみは宝珠形で、口縁部内面に返しを持つ。時期は8世紀前葉である。2・3は珠洲の壺・甕類の胴部片である。

4.まとめ

T19からT21より北側で古代の遺構を検出した。本調査対象地区の西側には古代北陸道が検出されており、また周辺には井戸や掘立柱建物などの古代集落が確認されていることから、本調査対象地区の北半部は桜町遺跡の古代集落の一部に該当するであろう。



第3図 T15 平断面図 (1:100)



第4図 出土遺物 (1:3)

日の宮・道林寺遺跡



図1 遺跡位置図
(1: 5,000)

1. 調査の概要

日の宮・道林寺遺跡は市街地の南西、渋江川左岸の河岸段丘上に位置する。本調査地は、旧・北陸工業専門学校のグラウンドであり、太陽光発電設備設置に先立つ試掘調査である。標高は約37mである。周辺田圃は西から東に向かって下降しており、本調査地との比高差は約1.2~1.7mとなる。現地調査は、平成26年12月24日から平成27年1月8日（実働5日間）で実施した。調査対象面積7,505m²に幅1m×長さ20m程の試掘トレンチを10本設定し、重機により掘削を行った。掘削深度は100cm前後を基本としたが、調査初期段階では、砂や砂質土の間に砂利を敷くことによって排水性を高めたグラウンドの地盤構造が確認されるのみであったため、T3およびT5において部分的に深掘りを行った。その最大掘削深度は約130cmとなった。基本層位は、図3の通りである。なお、V層は色調の違いにより細分したが、同一の土質で形成される。

2. まとめ

今回の調査地に隣接する地点において昭和51年に本調査が行われており、古墳時代および中世の遺構が多数確認されている。今回の調査は、確認された遺跡の範囲確認を目的に実施したが、遺構および遺物は検出されなかった。各トレンチにおいてグラウンド造成に伴う盛土と判断されるI・

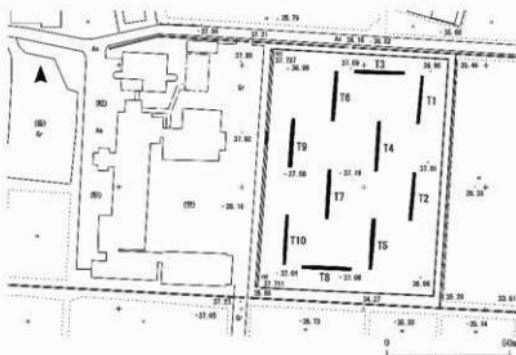


図2 トレンチ位置図 (1: 2,000)

II・III・IV・Va・Vb層の水平堆積を確認している。T5・T6・T7・T9・T10では、盛土の下層においてそれぞれVII・VIII・IX層を確認した。これらの層の確認面の標高が周辺の田面の標高に近いことや、VII層に近現代の土管破片を含むことから、旧表土面の上にグラウンド造成土を盛って整地を行ったものと考えられる。なお、T9のやや高い位置でVI層を検出している。盛土の一部である可能性もあるが、旧表土面が部分的に削平されている可能性もあるものと思われる。調査対象地の土壤が軟弱で、湧水による壁面崩落が激しいことに加え、工事の際に埋蔵文化財を保護するための一定の厚さの土層を確保できると判断されたことから、遺構面の確認は行わなかった。旧表土面を確認するに留め、それより下位の掘削調査は行わなかった。

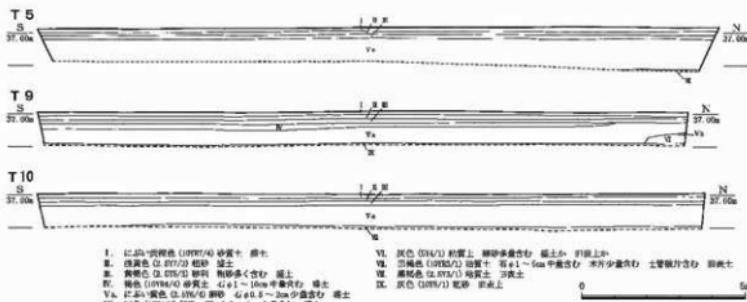
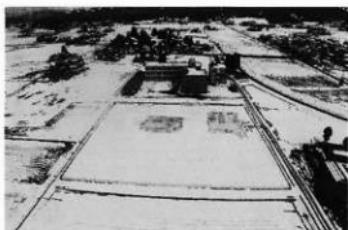


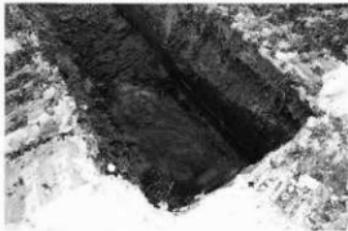
図3 T5・T9・T10断面図 (1:150)



遠景(東より)



T7 掘削状況(北より)



T9 最下層検出状況(北東より)



T10 最下層検出状況(南西より)

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうろくねんどおやべしまいぞうぶんかざいはくつちょうきがいほう							
書名	平成26年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報							
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第75冊							
編著者名	大野淳也 常深尚 岡田一広 中山優子							
編集機関	小矢部市教育委員会							
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号							
発行年月日	西暦2015年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經 世界測地系	調査期間	調査対象 面積 (m ²)	調査原因	
桜町遺跡(4)	小矢部市 桜町字産田 1278-1外	16209	021	36° 41' 17"	136° 52' 25"	20140703 ～ 20140731	13,952.80	商業施設建設
桜町遺跡(7)	小矢部市 西中野字坂東 499外	16209	021	36° 41' 16"	136° 52' 35"	20141104 ～ 20141127	9,829.65	商業施設建設
日の宮・ 道林寺遺跡	小矢部市 蓮沼 77-1外	16209	057	36° 39' 04"	136° 51' 16"	20141224 ～ 20150108	7,505	太陽光発電 施設設置
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
桜町遺跡(4)	集落	古代	獨立柱建物、溝 土坑、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、土馬 土師質土器				
桜町遺跡(7)	集落	古代	井戸、溝、柱穴	土師器、須恵器、珠洲、伊万里				
日の宮・ 道林寺遺跡	集落	中世	なし	なし				

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第75冊

富山県小矢部市

平成26年度 小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発行日 平成27年3月31日

編集・発行 小矢部市教育委員会

〒932-8611 富山県小矢部市本町1-1

TEL 0766-67-1760

印 刷 トッププリント